



てばじん TEBAzine

月刊 出羽人 2016年4月号 発行・出羽島を考える会 牟岐町教育委員会

「島民のためのお知らせ」を発行

牟岐町教育委員会が中心になって進めている「出羽島伝統的建造物群保存事業」（通称・重伝建）も、いよいよ申請の最終段階に入りました。

昨年からの波止の「旧元木邸」の改修工事が始まり、NPO法人「ひとつむぎ」の学生たちが、空き家活用ワークショップで島を何度も訪問するようになり、活気が出てきたようです。それをきっかけに、出羽島に新たに移住する人も少しずつ増えています。

また、重伝建の進行状況や、島の活動などを話し合うための「出羽島を考える会」が昨年9月から始まり、今年4月で8回目を数えました。

そこで、島みなさんに最近の島内の様子をお知らせしたり、新しい島民を紹介したり、何か困っていることなどを呼びかけられるように、「島民のための広報誌」をつくることになりました。よろしくお願ひします。

第8回「出羽島を考える会」の報告

4月8日の会では、重伝建の取り組みについて、牟岐町教育委員会の川邊さんと佐藤さんの報告がありました。島内にある昭和30年以前の建物100軒余りのうち、67軒の意向を伺い、53軒の持ち主から保存の同意が得られています。お伺いしたなかでは約68%、島内全体から見ると約49%が同意したことになり、文化庁の基準である60%以上まで、あと少しといった状況です。牟岐町から持ち主に連絡をしても、すぐに理解されないことが多く、島の親戚や隣人の方から前もって連絡をしていただけだと、話がスムーズに進むようなので、ご協力をお願いします。

出羽島民家改修工事の状況

昨年から解体が始まり、梁や柱などの交換や補修をしたあと、1月から復元作業が進んでいます。工事は6月末には終わるので、何かイベントを

施するか、話し合われました。重伝建の指定が正式に決まるのは12月なので、そのときを待っていると、少し時間が空いてしまいます。

町長に来てもらって祝辞をいただいたり、お世話になった大工さんにも来てもらいたいとか、餅投げをしたらどうかという意見が出ました。でもお餅を用意するのも大変なので、まんじゅうと赤飯を配ったらどうかという話に落ち着きました。包装ラベルに、最近移住してきた寺内君にイラストを描いてもらうことになりました。

4月の島内活動について

4月10日に、徳島県建築士会徳島支部の見学があり、23人が来島予定です。田中節子さんと鈴木みちさんが昼食を用意してくれることになっています。16〜17日は、草刈りのワークショップや、宝物探しのワークショップが行なわれる予定です。改修物件が完成したあとに食事を提供できるように、神谷

今後の活動について

町在住の神先さんが島の魚を使った料理をつくります。島民からは島そうめんとちらし寿司を用意し、16日夜の懇親会で提供されます。

不動産の譲渡や移住について対応する窓口の必要性が話し合われました。教育委員会にも、空き家を管理してほしいという要望があったそうです。風を通したり、台風などで壊れた部分の補修など、遠方にいる持ち主に代わり、島の人たちで管理できないか検討が必要

です。管理業務ほかに、不動産業者を通さず、島の人たちで管理できる「空き家バンク」のような仕組みが必要なのかもしれません。

最後に、この会でどんなことが話し合われているのか、島の交流事業などを島民にお知らせするために、簡単な広報誌をつくることになりました。毎月発行し、何号かまとまったら、島外にいる出身者にも送る予定です。



アート展のときに設置された展望台からの眺め

羽島に移住してきました



新井由己 (ロク)

空き家活用ワークショップに参加し、昨年10月に山梨から移住しました。文章を書いたり、写真を撮ったり、大工をするほか、楽健法という足踏みのマッサージができます。島民のみなさんには無料で施術しますので、疲れている方は声をかけてください。



丸山順子 (じゅん)

島に来てからお魚や野草料理のバリエーションが増えました。ロクちゃんと結婚し、3月に沖縄から移住。まだまだわからないことだらけですのていろいろ教えていただきました。ヨガや野草摘みを一緒にしたい方は、声をかけてください。



寺内嗣雅 (つぐ)

昨年12月に大阪から移住しました。ヒゲに黒縁メガネです。借りた家の改修や、コーヒー屋をしながら、美しい島の自然や古民家がある空間を絵にしています。できれば島民全員の似顔絵を描きたいと思っています。よろしくお願ひします。

改修中「旧元木邸」の愛称募集!



昨年からの工事が始まった「旧元木邸」も、年明けに解体・修復が終わり、6月末の完成に向けて、順調に復元工事が進められています。

この建物は「島民が利用できる施設」になります。ぜひ、みなさんと愛称を考えてみませんか？ 応募用紙をお配りするので、何か思いついた方は記入してください。後日、役員の方が回収します。締め切りは5月末です。

困っていることはありませんか？

草刈りが大変、家の補修を頼みたい、買い物をお願いしたい、ゴミを出すのが大変など、何か困っていることがあったらお手伝いできますので、部落会長さんか役員さんに声をかけてください。

「草刈り」や「宝物探し」の交流

4月16日、草刈りの共同作業を行いました。島民有志のほか、牟岐町教育委員会や周辺市町村からの参加者もありました。本田さん、野田さん、堤さんが事前に島内を回って、草を刈ってほしい場所を確認しておきました。10名ほどが集まり、地域を分担して朝9時から作業を開始。東側の堤防沿いや、観音寺下のヨシが生い茂っていた場所、山村さん宅の斜面、出島さん宅の学校側の斜面、八幡様の下側の斜面など、夕方まで作業が続きました。

並行して、昨年12月に「島の宝物」を探すワークショップの補足調査がありました。建築家の坂東幸輔さんや家具デザイナーの鴻野祐さんのほか、「ひとつむぎ」の学生たちが来島しました。新たな宝物の調査を行なうほか、そのデータを基に改修家屋の柵の設計を検討していました。また、ランドスケープデザイナー（都市の広場や公園など



の公共空間をデザインする人)の三島由樹さんも参加し、藍の栽培で柵田の再生を始めた一帯を案内して、さまざまな意見をいただきました。夜の懇親会では、神山町在住のシェフ・神先岳史さんによる出羽島の食材を使ったメニューが披露されました。レンコダイのアクアパッツァ、レンコダイのアヒージョと自家製パン、レンコダイとジャガイモのジェノベーゼ風、ブリのカルパッチョといった、イタリア料理が並びました。神先さんは月一回「旧元木邸」でシェフをしてくれる予定です。

